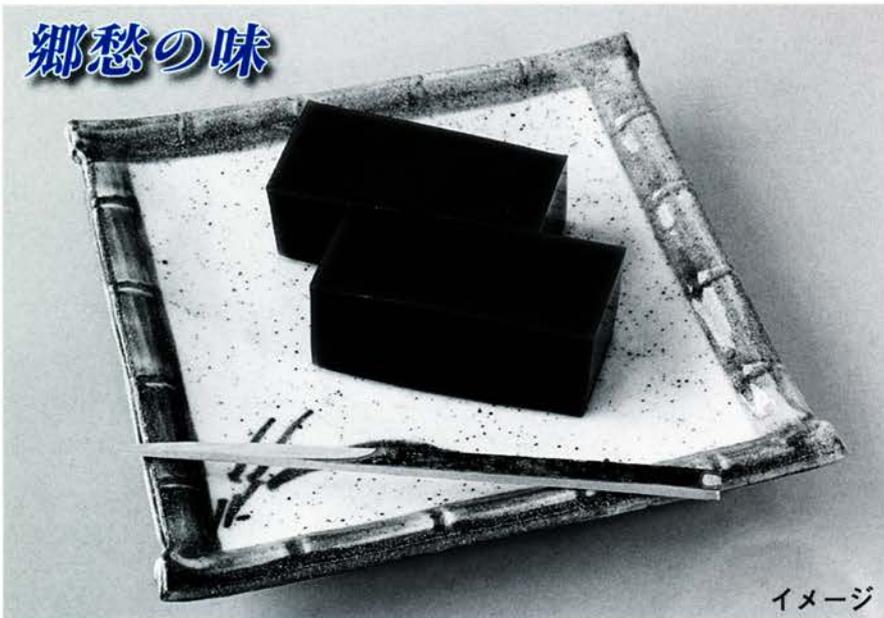


郷愁の味



イメージ

全国的に水ようかんは夏の和菓子としてのイメージが強いようですが、「でっちようかん」は寒い時期に作られ、これをコタツに入りながら食べるのが、大野市民の冬の風物詩となっています。

「でっちようかん」という名前の由来には諸説あります。例えば、丁稚でも買える安価な菓子だったからという説や、あるじの留守中によっかんを練っておくよう頼まれた丁稚が、白砂糖と黒砂糖を間違えて練ったようかんという説、ふるさとを離れて丁稚奉公する子どもに、土産として持たせたようかんであることからついた説などがあり、はっきりしたことは今もわからない

名前の由来

そうです。でっちようかんは基本的に小豆、黒砂糖、寒天、水で作られますが、ここでポイントになるのは大野の名水です。口に入れるとさらりと溶けるような独特の食感と上品な甘味の秘密は大野のおいしい水にあるようです。そこで、この「でっちようかん」のおいしさの秘密を探るため、市内の和菓子屋さん「奥越菓庵 やまうち」にお邪魔して、山内浩一さんにインタビューを行い、でっちよう

上品な甘味と口当たりの軽やかさが格別 大野銘菓「でっちようかん」



かんの製作過程も見学させていただきました。山内さんの「でっちようかん」は、市が推奨している名水特産品にも選ばれています。

突撃

インタビュー

——でっちようかんの材料と作り方を教えてください。

材料は、水・寒天・黒砂



てくてく レポート

16

～リポーターが
お伺いします～



リポーター

酒井 歩美さん
(21歳 矢)

仁愛大学で心理学を専攻しています。食べるのが好きなので、「でっちようかん」というテーマを選びました。今回のレポートが、よりたくさんの方々にとってでっちようかんを知っていただくきっかけになればうれしいです。

糖・白砂糖(ざらめ)・自家製の練りあんの五つです。作り方は、水に一日浸しておいた糸寒天の水気をよく切り、大野の水を入れた鍋で糸寒天をよく溶かし、白砂糖、黒砂糖を入れ沸騰させます。それを、あんの入った鍋に入れ、沸騰したら火を消し、できた液体を約五〇度まで冷ましたら、しずかに箱に流し込みます。最後に箱の中で固まったら、長さ十センチくらいの直方体に切って終わりです。

——作っているときに難しい点がありますか？

箱に流すタイミングが難しいです。約五〇度まで温度が下がったところで流さないと、あんが下に、寒天液が上に分離して二層になってしまつので、流すタイミングを見極めるのが大変です。

——おいしく食べる秘訣(ひけつ)を教えてください。

冷蔵庫でよく冷やしてから食べるとうすっきりとのごじも良くなり、おいしく味わえ

ます。日持ちに関しては冷蔵庫で保存すれば四、五日は大丈夫ですが、作り手としては二、三日中のできるだけ早く召し上がっていただきたいです。

——材料へのこだわりについて教えてください。

でっちゃんかんは、材料が単純で味のごまかしがきかないので、材料にこだわるのもちろんのこと、材料の配分にも気をつけています。例えば、使用している黒砂糖は沖縄の波照間産のものなのですが、この波照間産は上等品で、実績がなければなかなか購入できません。また「水の味で

おいしさが左右される」といわれ、大野の水がおいしいのはありがたいことです。特にでっちゃんかんのように水をたくさん使つ和菓子は大野の名水の恩恵を受けています。

——市民の方々へメッセージを一言お願いします。

生まれ育ったところから飲み続けているこの大野の名水で作ら

れている「でっちゃんかん」を、冬の風物詩として作り続けたいと思います。

市内のさまざまなお菓子店、まな和菓子店のでっちゃんかんを味わってみて、好みの味に合ったものを探し出すのもおもしろいと思います。より多くの方々が大野の伝統銘菓であるでっちゃんかんを味わっていただきたいです。

取材を終えて

今回初めて、でっちゃんかんを作る過程を見ることができ、貴重な経験になりました。仕事台いっぱいになりながら流し込まれたばかりのようかんは、表面がまるで鏡のようにつるつるで、とてもきれいで

した。そして実際にようかんを食べてみると、黒砂糖のやさしい甘さや香りが口に広がって、とてもおいしかったです。

また、普段何げなく飲んでい





市民のページ

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は
情報広報課まで ☎0779・66・1111

絵好きな仲間で活動



乾側愛美会は、乾側公民館の文化講座修了生が中心となり十年ほど前に結成した水彩画と水墨画に取り組むグループです。もともと会の名称がない状態で活動していましたが、三年ほど前に金沢市の美術館に行った際、移動のバスの中で「美術を愛するメンバーで構成する会」として、愛美会と名付けたとのこと。

現在は十人。毎月第二木曜日は九里剛哉さんを講師に水彩画、第四木曜日は南部太郎さんを講師に迎え水墨画に取り組んでいます。「水彩画と水墨画の両方に興味ある人も、どちらかを専門に勉強したい人も、この会に入れば経験することができます。ほとんどの人が仕事を持っていてので夜にしか集まりませんが、好きだから続けられるのだと思います」と代表を務める松田清一郎さん。

乾側愛美会は、乾側公民館の文化講座修了生が中心となり十年ほど前に結成した水彩画と水墨画に取り組むグループです。もともと会の名称がない状態で活動していましたが、三年ほど前に金沢市の美術館に行った際、移動のバスの中で「美術を愛するメンバーで構成する会」として、愛美会と名付けたとのこと。

現在は十人。毎月第二木曜日は九里剛哉さんを講師に水彩画、第四木曜日は南部太郎さんを講師に迎え水墨画に取り組んでいます。「水彩画と水墨画の両方に興味ある人も、どちらかを専門に勉強したい人も、この会に入れば経験することができます。ほとんどの人が仕事を持っていてので夜にしか集まりませんが、好きだから続けられるのだと思います」と代表を務める松田清一郎さん。

「公民館を利用して活動しているのが気軽に来てもらえれば」と新規メンバーを募集しています。詳しくは松田さん ☎66・0314 までお問い合わせください。

【広告欄】

報恩講料理の集い

素朴で奥の深い大野の精進料理・報恩講料理を通じて、心と食の大切さを味わってみませんか。

期間：平成20年1月～3月
毎週土、日、祝祭日のお昼のみ予約限定

料金2,500円
予約：平成大野屋 はいから茶屋
0779-69-9200

無料レポートプレゼント!

「家づくりで損をしない方法」 限定10名様!!

定価1,000円 A5版73頁 本屋さんでは売っていません!

お申込は⇒Tel.0120-48-0618

(有) 羽生建築工業

大野市中掘 16-20

パソコンで簡単に美しい御香典帳を作成! ¥12,600.

★香典帳作成ソフトウェア★

パソコンde 御香典帳

多彩な印刷機能/焼香順決定支援機能

企画・開発・販売 メディア・センター (石田浩二)
陽明町1丁目1210 (0779-66-1512)
<http://homepage3.nifty.com/mediacenter/>



清水 泰光さん (19歳・中挟)

福井工業高等専門学校4年の清水さんは、昨年8月に香川県で開かれた「第42回全国高等専門学校体育大会」水泳の部に出場し、男子200メートルバタフライで準優勝を果たしました。水泳への思いなどを聞きました。

——水泳はいつから

3歳の時に初めてスイミングスクールに連れて行ってもらいました。それ以来、ずっと続けています。競技として取り組み始めたのは小学4年生のころ。スクールの先生に勧められたのがきっかけです。これまで水泳自体を嫌になったことはありません。

——そのころからバタフライを

本格的にバタフライに取り組み始めたのはスイミングスクールを変更した1昨年の秋ごろからです。週に5～6回、1日約2時間練習していますが、ほかの種目と比べものにならないくらい練習がきつく、腕が上がらなくなります。バタフライはいかに水の抵抗を減らす泳ぎができるかが重要です。タイムが伸びず悩むこともあります。タイムが伸びるとやっつけて良かったと思います。練習ある



のみだと思います。

——全国大会を振り返って

1年生の時から毎年、全国大会に出場しています。これまではクロールで出場し、入賞はできませんでした。今回の大会では、予選を2位で通過し、どうやって勝つかを考えながら決勝に臨みました。決勝では、予選トップ通過の選手が隣のレーンだったので、無心になって最初からスピードを出していきました。前半折り返しの100メートル時点でほぼ同着、150メートルの地点では少しリードしていました。「勝てる」と思い、そこで力んでしまい、最後は抜かれてしまいました。勝てたレースだったので、とても悔しかったですね。

——今後の目標は

2月にタイムを競う県予選会があります。標準タイムを突破すれば全国大会に出場できるので、まずはそのタイムを目標に頑張りたい。それから、夏には全国高等専門学校体育大会が開催されるので、今回の雪辱を果たし、優勝したいと思います。将来は自分が教える立場になって、水泳の魅力などを伝えていければと思っています。

全国高等専門学校体育大会200メートルバタフライで準優勝
「夏の大会で雪辱を」



【広告欄】

広告募集中

(1カ月1枠1万円)

問い合わせ先
情報広報課広報広聴係
(☎66・1111内線441)

各種損害保険・各種生命保険
事故相談・各種保険診断

グランド保険株式会社

〒912-0021 大野市中野町2丁目2番16号
☎050-3386-3952 ☎(0779)65-6601
☎(0779)65-6657 ✉info@grandboken.com

〈取扱保険会社〉 損害保険ジャパン アリコジャパン Affac
損保ジャパンひまわり生命 第一生命

水まわりの安心
下水道接続も

伏見屋設備

TEL 66-3412
陽明町二丁目807
http://www.fusimiya.jp



人権尊重の大切さ訴え

12月4日から10日の「人権週間」にちなんだ街頭や施設での啓発活動が、市内各地で行われました。初日は越前大野ふるさと大使の山下由美さんを一日人権擁護委員に委嘱し、ショッピングモールヴィオで街頭啓発を実施。いとよ保育園の園児によるマーチングや歌の披露もあり、買い物客に人権尊重の大切さを訴えました。

11月から12月にかけて、
市内各地の観光名所で
越冬準備が行われました。



道の駅九頭竜の恐竜モニュメント
引っ越し(11月29日)



「仏御前の滝」遊歩道の柵倒し(11月29日)



円山小動物園の動物引っ越し(11月14日)

市内各地で
「越冬」準備



麻那姫像雪囲い(12月3日)



話題のひろば

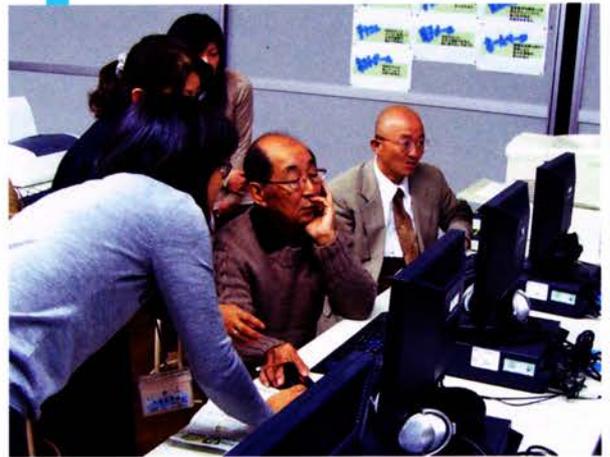


“小京都”五番に集結

全国で「小京都」と呼ばれる地域の特産物を集めた「小京都物産五番まつり」が11月17日、18日の両日、五番商店街で開かれました。会場は、お目当ての商品を求める観光客でにぎわいました。

「ふくe-ねっと」推進へ

昨年3月、県と県内全市町で運用を開始した「ふくe-ねっと」では、パソコンを使って公共施設の予約や申請などが行えます。その操作講習会が学びの里「めいりん」で開かれ、参加者は、熱心に操作方法などを学んでいました。



雨の駅伝に温かい声援

奥越ふれあい駅伝が10月18日、奥越ふれあい公園を発着するコースで行われました。小学生から一般まで750人の選手、監督が参加。雨の降る肌寒い天候の中、白い息を吐きながら懸命に走るランナーに対し、父母や関係者からは温かい声援が送られていました。



親子で「体力向上」

11月25日、学びの里「めいりん」で「元気アップ親子セミナー」が開かれました。子どもの体力向上を目的に初めて開かれたもので、親子約60人が参加。ゲームや体操を通して楽しく体を動かすことや、食を中心とした健康づくりの大切さを学びました。（写真は測定する人を中心に、4方向に体を曲げたり反ったりして点数を競う「ぐるっとタッチ」）



笑顔！で「いただきます」⑩

穴馬かぶらのシチュー



作ってみよう

- ①鶏肉は小さく、マッシュルームは薄切りにし、かぶら、玉ねぎ、ニンジンはいれやすい大きさに切る。
- ②油で鶏肉をいため、色が変わったら①の材料を混ぜてさらにいためる。その後水を加えて煮る。
- ③弱火でバターを溶かし、小麦粉を加えて練り混ぜる。冷たい牛乳を一度に加えルーを作る。
- ④②に③を混ぜ、少しとろみがつくまで煮る。
- ⑤グリーンピース、コーンを入れ、チキンスープのもと、塩、こしょうで味をととのえる。



材料（一人分）

- ※分量は給食献立に基づき表示
- ・鶏肉30g
 - ・穴馬かぶら60g
 - ・玉ねぎ40g
 - ・ニンジン6g
 - ・マッシュルーム10g
 - ・グリーンピース6g
 - ・チキンスープのもと1.5g
 - ・バター3.5g
 - ・コーン6g
 - ・小麦粉6.5g
 - ・牛乳40g
 - ・水80g
 - ・塩0.3g
 - ・油3g
 - ・こしょう少々

子どもたちの健康を支えている給食献立。今月は「穴馬かぶらのシチュー」です。

給食から一品

達人のワンポイントアドバイス

かぶらは煮過ぎると溶けるので、ニンジンなどを煮た後に入れましょう。かぶらの葉を入れる場合は、湯がいたものを切ってホワイトソースを入れる前に入れるようにすると、子どもでも抵抗なく食べられます。

（学校調理師 清家ひろみさん）



市民のうごき

平成19年12月1日現在

世帯数	12,271世帯（-6世帯）
人口	38,850人（-47人）
（男）	18,531人（-18人）
（女）	20,319人（-29人）

◆11月中の内訳

転入	52人	出生	22人
転出	97人	死亡	24人

編集後記

新年明けましておめでとございませう。今年も「広報おの」をご愛読のほど、よろしくお願ひいたします。新年号をご覧になって、気付かれた方もおられると思いますが、今月から「市民のページ」に有料広告を掲載することになりました。少子化や高齢化などの行政課題に対応し、少しでも自主財源を確保する取り組みとしてスタートしたものです。

新しい取り組みにはいろいろなお意見があると思います。広告掲載を機に、広報紙への関心が高まり、より一層広報の充実につなげていければと思っています（林）



千支では戊子年でネズミ年。子は「産み増やす、育てる、しげる」の意だが子年は変異の多い年とも言われる▼

前回の戊子年（昭和二十三年）は戦後復興と経済成長の兆しの中、憧れのハワイ航路や東京ブギウギの流行歌が流れ、NHKのど自慢などが始まった。はがき二円、コーヒー二十円の時代だった。思い出すのは福井震災である。地震だけは勘弁してほしい。▼昨年は人々の信頼を逆なでするような不信の種がまかれすぎた。信頼を得ることは難しいが、不信感はやっとしたことで深まることが多い。社会でひとたび不信のヒビが生じると信頼の心は呼び戻せない。自分ではささいなことでも相手の心を傷つけることもある。不信が不信を呼ぶような世の中は困る。目先だけの新しい変化に惑わされないようにしたいものだ▼物の増加の急激なたとえで和算にネズミ算がある。正月に一組の夫婦ネズミが十二匹の子を産み、次月にその十二匹がそれぞれ十二匹ずつ産んでいくと、コンピュータの計算では一年後には二百七十六億八千二百五十七万四千四百二匹というあきれるほどの数になる。このネズミ算式を人間信頼回復力にすれば、よき世になるのだが、「新しい年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉事（万葉集、大伴家持）」（安田）

発行 福井県大野市

編集 情報広報課広報広聴係（☎0779・66・1111）